

5 - 1 東海地方の微小地震の分布(1984年5月1日~1984年10月31日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District

(May 1, 1984 - October 31, 1984)

名古屋大学 理学部

School of Science, Nagoya University

前報¹⁾に引き続いて1984年5月1日より1984年10月31日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

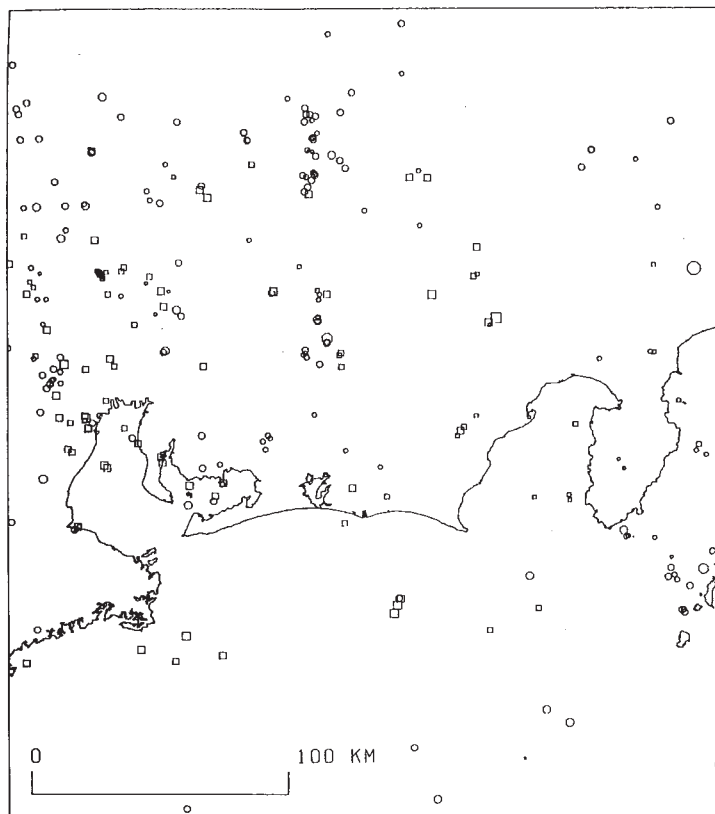
第1図に1984年5月1日より1984年10月31日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20 km以浅に発生している地震の震央を3ヶ月ずつの期間に分けて示す。第2図は同じ期間に20 kmから80 kmの間の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 王滝村付近に発生する地震はこの期間ずっと不活発であったが、9月14日08時48分にM6.5の地震が発生した。最大余震は9月15日07時14分のM6.3で、余震域は群発地震発生域をほぼ突っ切る形で東西方向に20 km程度となり、10月末迄に名古屋大学理学部地震予知観測地域センターの観測網で処理された余震の数は4730個に達した。
- (2) 伊豆半島東方沖では静穏な状態が続いていたが、8月30日より活発な活動があり、9月5日にM4.8の地震が発生して地震の数もピークとなった。10月末の段階でも活動は継続している。
- (3) 6月18日から20日にかけて天竜川河口の南約30 kmの遠州灘でM2.6の地震を含む小規模な群発地震活動が認められた。
- (4) 上記以外の地域では特に際立った活動は見られなかったが、全般的には天竜川以西の地域で発生している地震数は比較的多かったようである。
- (5) 8月9日名古屋市付近でM3.9の地震とその余震が発生した。
- (6) 8月13日には静岡市付近でM4.2の地震があった。

参 考 文 献

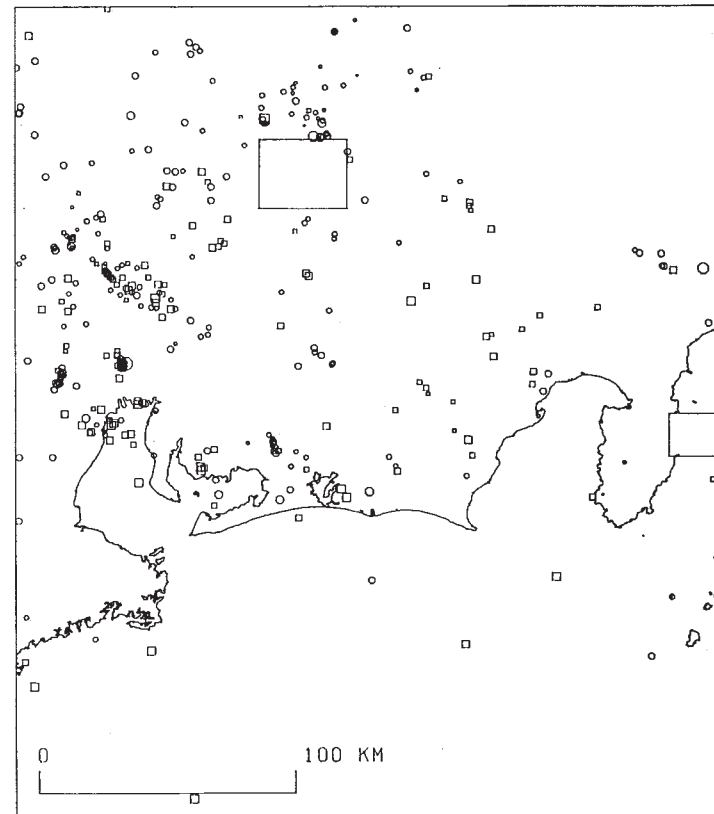
- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分析(1983年11月1日~1984年4月30日), 連絡会報, **32** (1984), 197 - 200.



N = 272

DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ • ○ ○ ○

1984 5 1 - 1984 7 31



N = 373

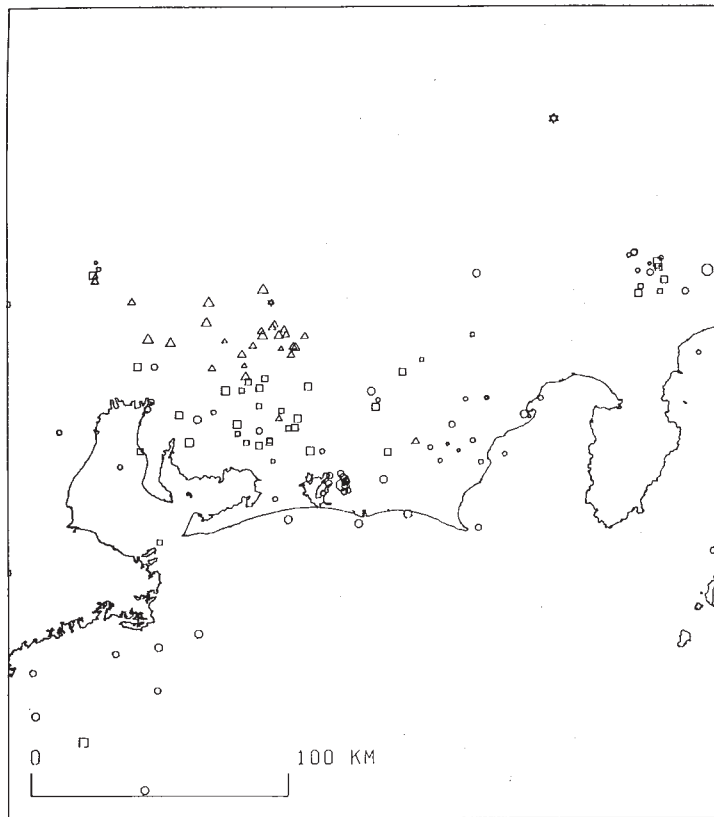
DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ • ○ ○ ○

1984 8 1 - 1984 10 31

(NAGOYA UNIV)

第1図 微小地震の分布 (1984年5月1日~1984年10月31日) 震源の深さが20 km以浅のもの。1984年長野県西部地震の余震域と伊豆半島東方沖の群発地震域は除いてある。

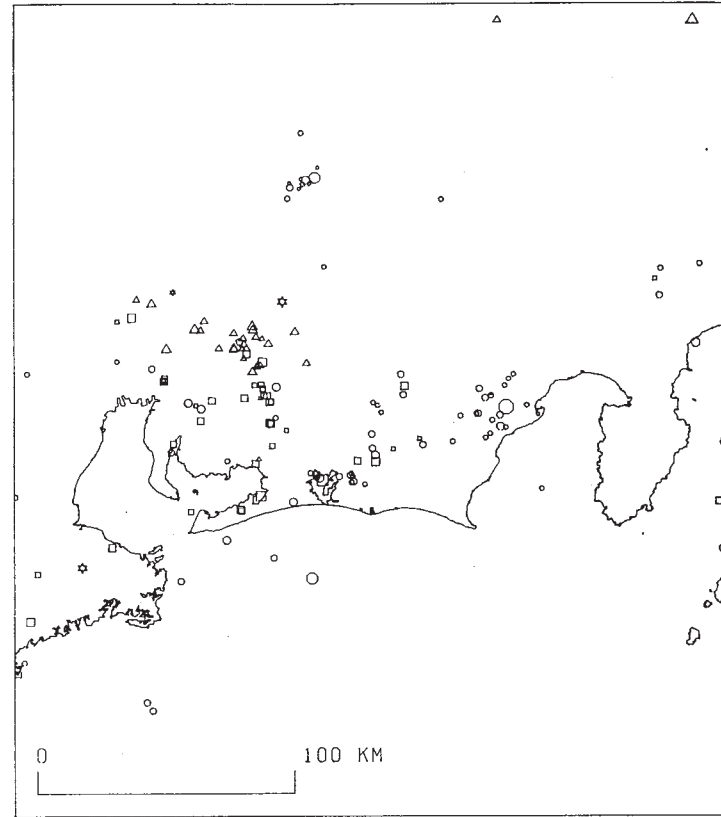
Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, 1984 - October 31, 1984) shallower than 20 km. The epicenters of Western Nagano Prefecture Earthquake, 1984 and aftershocks and of earthquake swarm in the east off Izu peninsula are excluded.



N = 135

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1984 5 1 - 1984 7 31



N = 169

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1984 8 1 - 1984 10 31

(NAGOYA UNIV)

第2図 微小地震の分布 (1984年5月1日~1984年10月31日) 震源の深さが20 kmより深いもの

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, 1984 - October 31, 1984) deeper than 20 km.